

雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ山頂の赤沼火口及び北西側斜面の噴煙活動は、3月21日の噴火直後に比べ低下傾向にあるものの、活発な状態が続いています。5月9日～10日に火山性地震が多発し、振幅の小さな火山性微動も観測されました。火山活動は全体として低下してきていますが、依然活発な状態ですので、山頂火口近傍及び北西側斜面では注意が必要です。

火山情報の発表状況（2006年5月）

発表日時	情報番号	内容
1日 16時 00分	火山観測情報第26号	活発な火山活動継続、その後の状況、4月26日に行った上空からの観測結果
8日 15時 40分	火山観測情報第27号	活発な火山活動継続、その後の状況
10日 11時 00分	火山観測情報第28号	火山性微動の発生、火山性地震の多発
15日 16時 00分	火山観測情報第29号	活発な火山活動継続、その後の状況
22日 16時 00分	火山観測情報第30号	活発な火山活動継続、その後の状況
29日 16時 00分	火山観測情報第31号	活発な火山活動継続、その後の状況

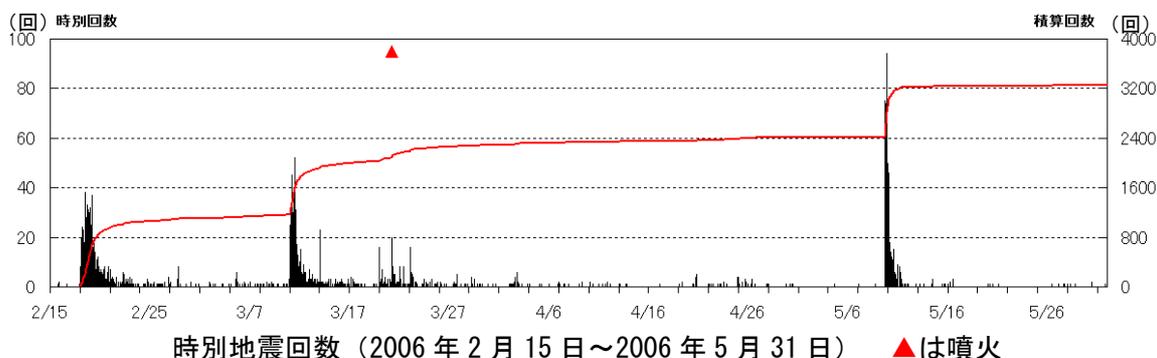
2 地震および微動の発生状況

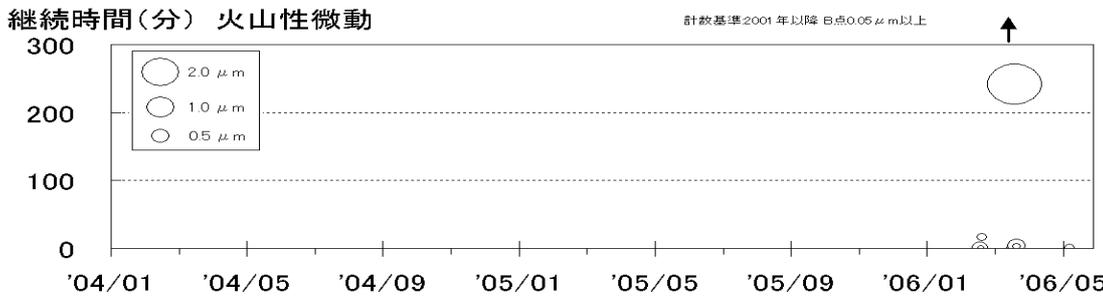
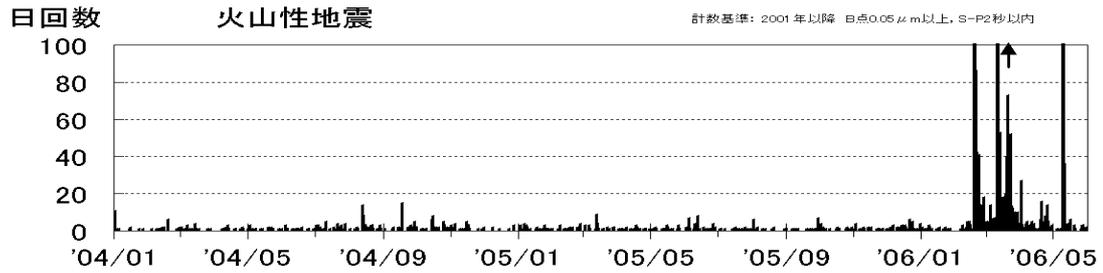
5月9日16時43分に規模の小さい火山性微動が発生した後、18時頃から火山性地震が増加し、9日453回、10日320回と多発しました（地震回数は暫定値）。地震回数は最盛期の9日21時台に1時間あたり94回を数えましたが、10日15時以降は1時間あたりおおむね5回以下に減少しました。地震の規模はいずれも小さく、身体に感じる地震は発生しませんでした。これらの地震の震源はポンマチネシリ火口直下、深さが海面付近と推定されます。微動の発生および地震が増加の際に、噴煙の状況やGPSによる地殻変動観測には特段の変化はみられませんでした。

地震・微動の月回数（B点）

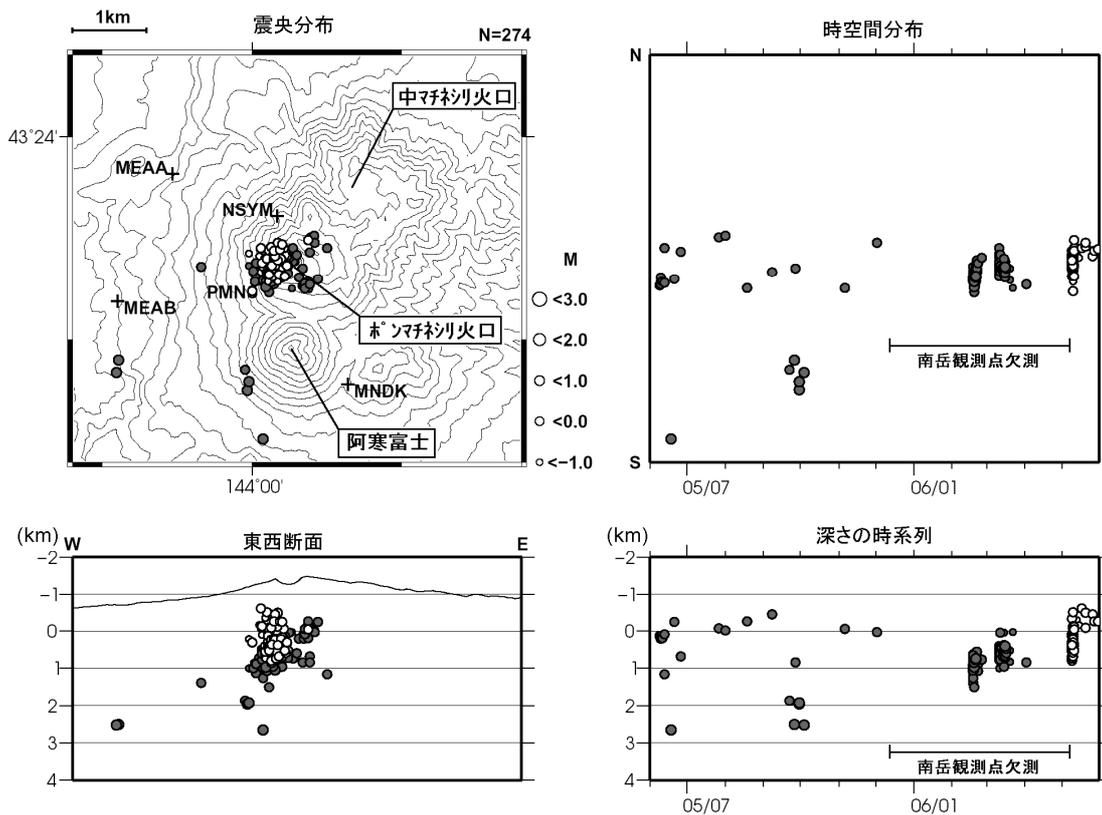
2005～2006年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	40	14	16	18	22	20	44	22	1129	1183	128	844
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	0	1

※ 地震回数は暫定値です。後日変更される場合があります。





最近の地震および微動の発生状況 (2004 年 1 月~2006 年 5 月) ↑印は噴火



雌阿寒岳の震源分布図 (丸印: 震源、+印: 地震観測点)

○印は今期間(2006年5月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの11ヶ月間(2005年6月~2006年4月)に求まった震源を示しています。

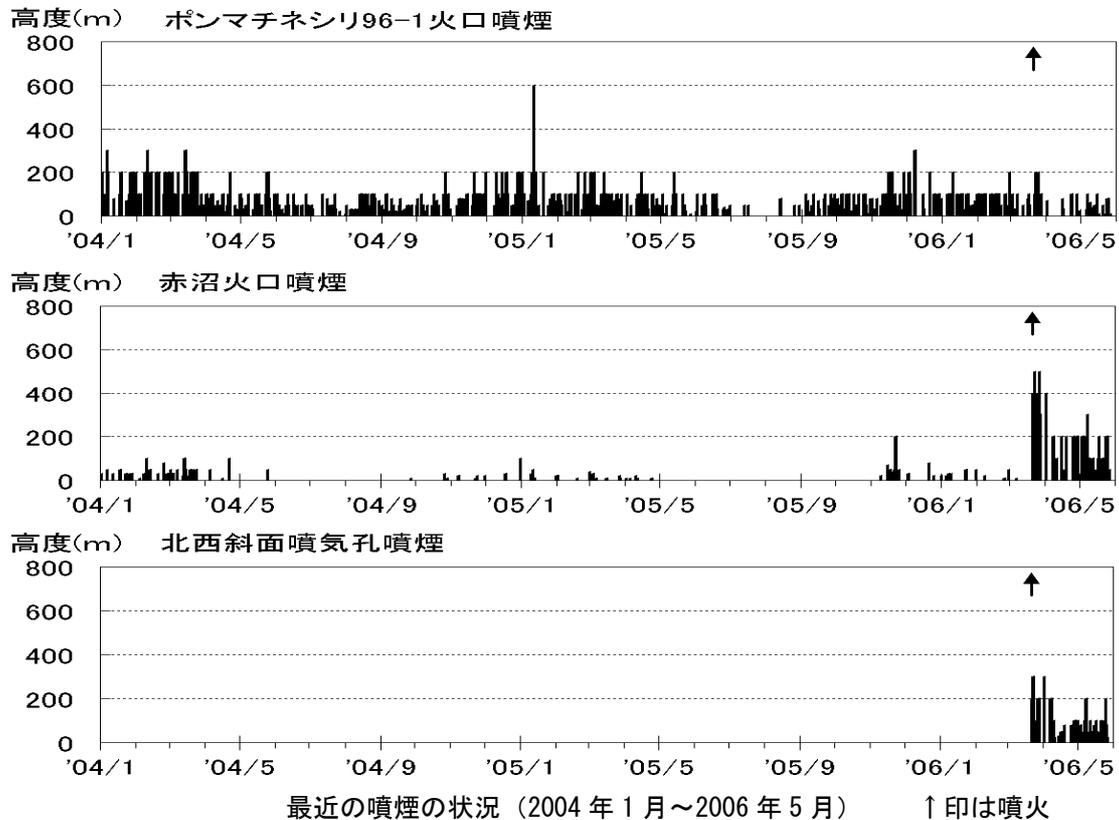
雌阿寒岳で発生した地震の多くは、ポンマチネシリ火口直下の海面付近に分布しており、5月9日~10日にかけて多発した地震の多くもこの領域内に震源が求まっています。

※2005年12月11日から2006年5月8日までは、南岳観測点障害のため震源決定能力が低下しています。

2月18日以降の震源については精度の悪いものも含めており、後日変更される場合があります。

3 噴煙の状況

ポンマチネシリ山頂の赤沼火口及び北西側斜面の噴煙活動は依然活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね100～200mで推移しました。ポンマチネシリ96-1 火口の噴煙の状況は噴火前と変わらず、噴煙の高さは火口縁上概ね100m で推移しました。

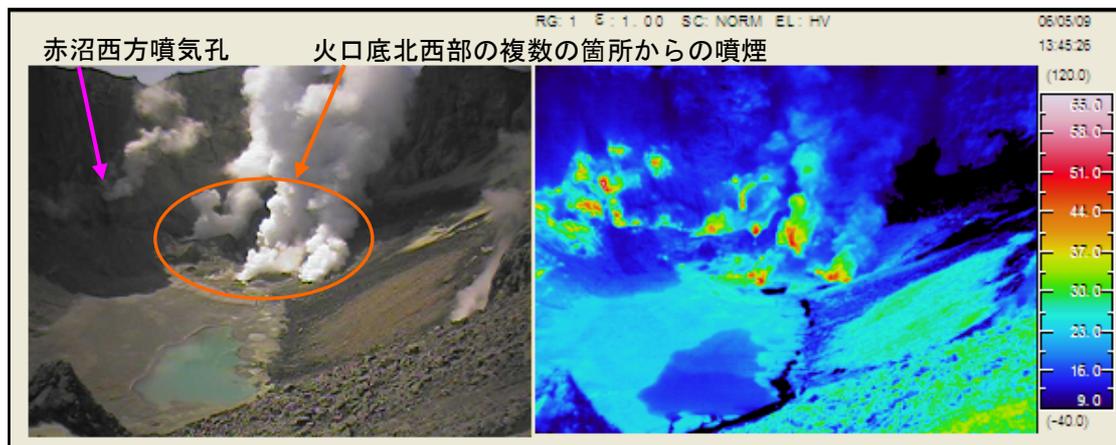


4 調査観測結果

5月9日に行った調査観測によると、赤沼火口では火口底北西部の複数の箇所から白色の噴煙が比較的強い勢いで噴出し、依然として活発な噴煙活動が続いていました。

赤外熱映像装置*による観測ではこれらの噴煙や地熱域に対応した高温領域が認められましたが、その状況に特に変化はなく、新たな高温領域も観測されませんでした。赤沼火口内では、既存の赤沼西方噴気孔の温度が最も高く (約70℃)、火口底北西部では約60℃でした。

また山頂の北西側斜面では、噴気孔群の上部で依然活発な噴気活動が続いていました。

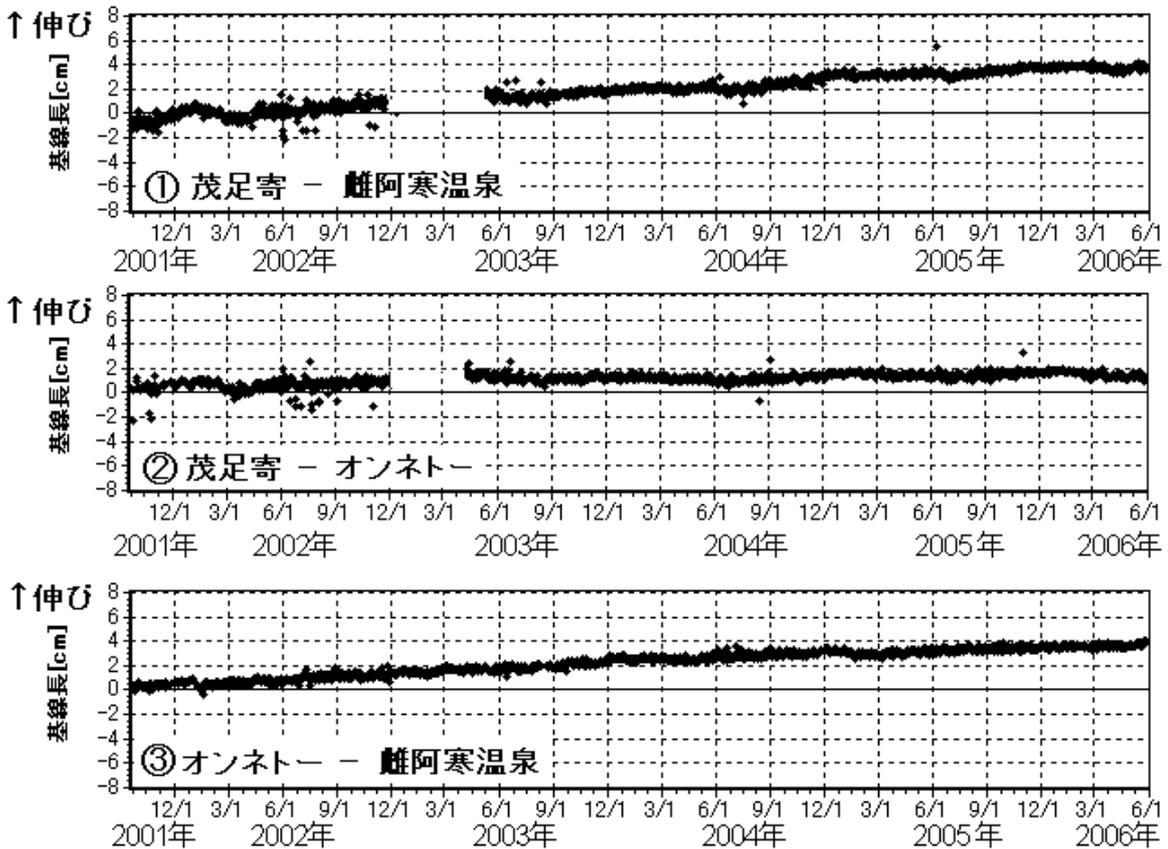


赤外熱映像観測による赤沼火口内の表面温度分布
(2006年5月9日 赤沼火口東側火口縁から撮影)
火口底北西部および赤沼西方噴気孔から白色の噴煙が噴出している

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

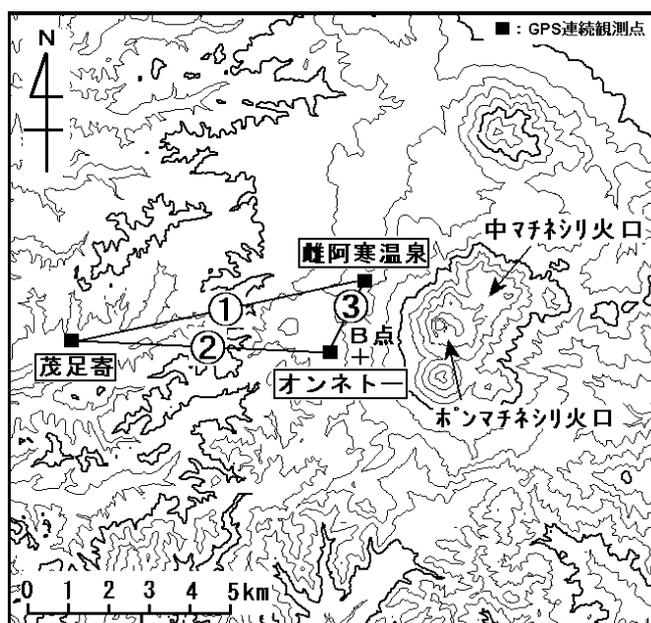
5 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

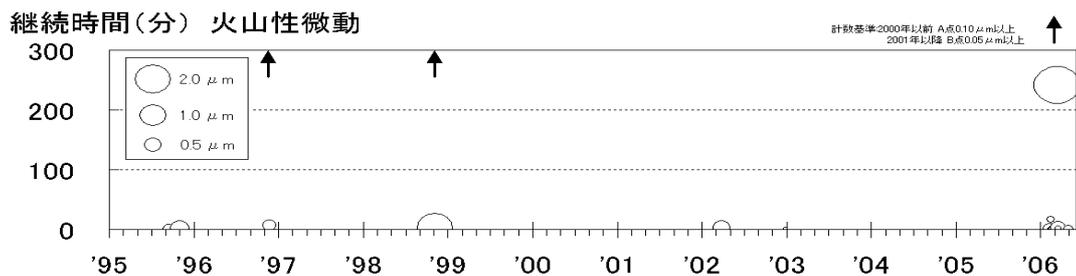
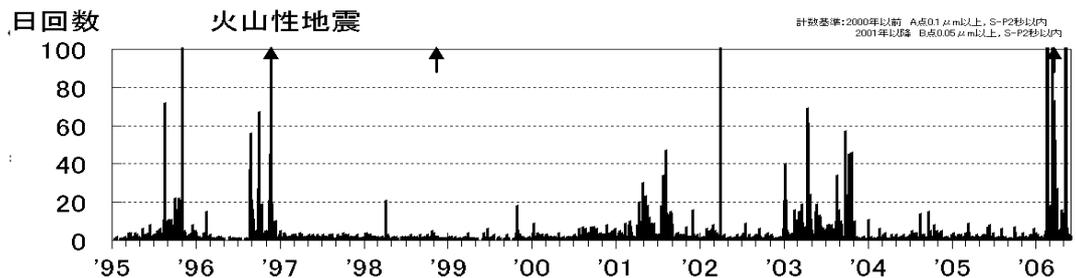
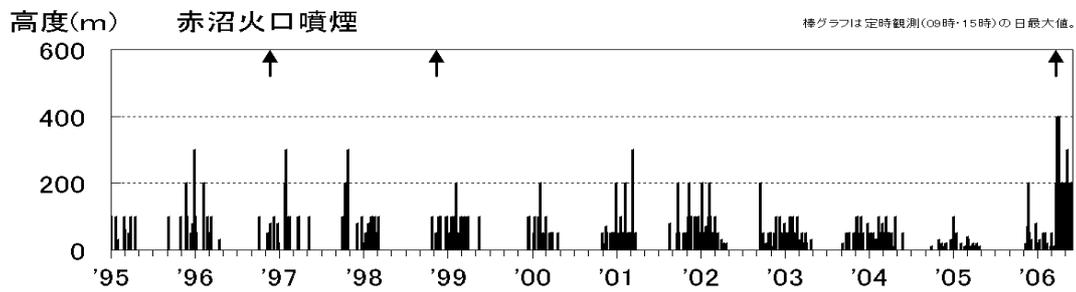
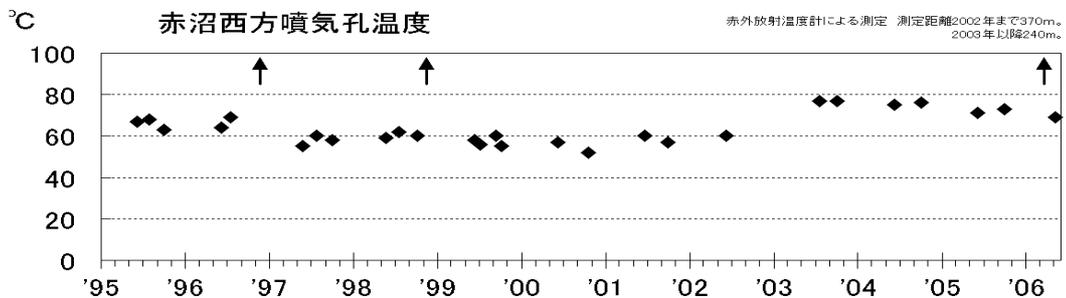
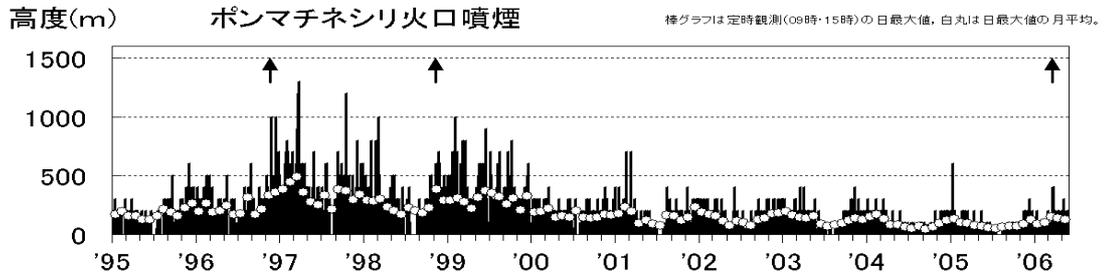
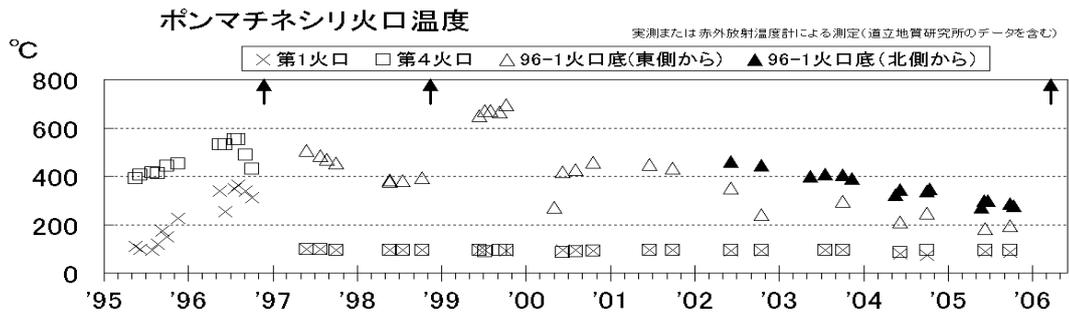


基線長変化（2001年9月19日～2006年5月31日）

基線長変化グラフの空白部分は欠測



GPS 観測点配置図



近年の火山活動経過図 (1995年1月1日~2006年5月31日) ↑印は噴火